

CHIGASAKI 市立病院だより

第44号

平成12年9月発行

発行/茅ヶ崎市立病院

茅ヶ崎市本村 5-15-1 TEL52-1111

身近な病気シリーズ 5

いわゆる“ぢ”について

外科 釣田 義一郎

- ア) 排便時の肛門からの出血
- イ) 肛門及びその周りの皮膚の痛みやかゆみ
- ウ) 排便時、肛門から奥のものが飛び出す(脱肛)

以上のような症状でお困りの方はいらっしゃいませんか？

医師の診察を一回も受けずに“ぢ”であると自分で診断して、市販の薬を何年も使い続けている患者さんを見かけますが、その多くは、効果のない薬、あるいは間違った薬をだらだらと使用している患者さんです。

患者さんが“ぢ”の診察にいらっしゃらない理由は、特に

- ア) おしりの病気があると、おしりを不潔にしていると思われる。
 - イ) おしりを他人にみられるのは恥ずかしい。
- の2つの理由があります。

しかし、おしりの病気のうち、おしりを不潔にしていることが原因で起こる病気は、ほとんどありません。

また、おしりを人に見られるのは、女性に限らず、だれでもはずかしいものですが、おしりの病気はそのほとんどが良性で簡単な手術や処置、投薬で治ります。また、肛門からの出血や血便が、大腸のポリープや癌が原因で起こっていることもあります。

ですから、是非一度、勇気を出して(?) 専門の医師に診察してもらいましょう。

以下、代表的なおしりの病気をご紹介します。

(1) 内痔核（ないぢかく、“いぼぢ”）

排便時の出血や血便、特に真っ赤な血液がみられた場合、その多くがこの病気によるものです。肛門の奥の方の粘膜の下にいぼができるため、排便の時にこすれて出血します。またそのいぼが大きくなると、排便の時、便と一緒に肛門の外に飛び出してきます。（脱肛）。診断は簡単で、普通の診察台で肛門の中に指をいれたり、肛門鏡という道具を肛門の中に入れて、肛門の中をのぞき込むことにより診断できます。

病気の程度は、

第1度

排便後に出血するが、脱肛はなく痛みもない。

第2度

排便時に脱肛するが自然に戻る。排便時に出血や痛みを伴う。

第3度

排便時に脱肛し、指で押し込まないと戻らない。

第4度

排便時以外でも脱肛し、一度脱肛したら指で押しても戻らない。

の4つに分類されます。第1度や第2度の患者さんは、軟膏や坐薬による治療を行います。しかし、原則的には、第3度と第4度の患者さんには手術を勧めています。

手術はいぼの切除を行います。また、同時にいぼの原因になっている血管を縛り再発を防ぎます。

(2) 外痔核（がいぢかく）

肛門の手前にできる、いぼです。中身は血の塊であり痛みを伴うことがあります。軟膏や坐薬で治療しますが、痛みがひどい場合は手術で切除します。

(3) 裂肛（れっこう、“きれぢ”）

硬い便を排便した時、肛門の皮膚が切れることがあります。通常は一時的なもので自然に治りますが、ばい菌がついたり、何度も繰り返して切れたりすると、切れた場所に潰瘍（かいよう）ができたり、炎症性のポリープができることがあります。これが、裂肛です。ほとんどが坐薬や軟膏で治りますが、治りにくい場合は、肛門の拡がりをよくする手術を行います。

(4) 痔瘻（ぢろう、“あなぢ”）

肛門の内部からばい菌が入って、筋肉の間や、皮膚の下に膿瘍（うみが溜まったもの）

を作ることがあります。これを肛門周囲膿瘍（こうもんしゅういのうよう）といい、膿瘍を切開してうみをだすことにより治ります。しかし、これを繰り返したりすることにより、肛門内と肛門周囲の皮膚との間に硬い管のようなものができ、持続的にうみを出したり、時に腫れあがったりするようになります。この管のようなものを、痔瘻と呼びます。こうなると、手術で切除しなければ、完全には治りません。

以上、簡単に“ぢ”と呼ばれている病気について紹介いたしました。

自分の症状が上記のどれかにあてはまりそうな場合には、是非一度、専門医の診察を受けられることをお勧めいたします。



Copyright © 2000 - 2003 Chigasaki Municipal Hospital. All Rights Reserved.